

# 『新・国際売買契約ハンドブック』

---

(Y.Y.・20 代・司法修習生)

『新・国際売買契約ハンドブック』という題に相応しく、論理的な面は深く追求せず、簡潔かつ明瞭に、渉外的に行われる売買契約の締結とその履行などについて、その際に作成される契約書を中心に横断的実務的な解説がなされている。具体的には、第1部では、「国際売買契約の基礎」という題目で国際私法や米国法や英国法やその他様々な国際売買契約に関する法律を売買契約の締結から順を追って解説し、他方第2部では、「国際売買契約書の書き方」という題目で、契約書に記載が要されるであろう事項を契約の目的物や起こりうる問題ごとに解説するという体裁がとられている。そして、本書の一番大きな特徴は、第3部における「国際売買契約書文例および各種書式」も含め契約書の条項の例は全て基本的に英語により示されているということである。また、契約書に記載される英語による法律概念に関しても、日本法にその概念がないものに関しては詳細な解説が加えられている。そのため、法律英語を学習するという点においても、学習の端緒として、また実務における資料収集の第一段階としても本書は非常に有用であろうと考えられる。

『法学教室』2018年6月号(No.453)掲載「Reader's Voice」より